

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 35 号

平成25年 4月 1日



所蔵作品紹介

(34)

「出山釈迦像」(木彫)

畑

正

吉

作

(大正8年)

(高さ120×幅36×奥行27)

第19回 青井中美展

11月15日(木)～
12月7日(日)

青井中美展も多くの方々のご支援とご協力に支えられ、今年度で第19回展を迎えました。県内全ての中学生を対象とした美術公募展として広く周知され、今年は参加校50校、応募作品数691点、うち入選371点となり、平均入選率は53%でした。期間中は、中学生をはじめとする724名の来館者があり、盛況のうちに幕を閉じました。

各賞受賞者

青井大賞	苗加 寅央 (高松)
富山県知事賞	太田 奈央 (高松)
富山県教育委員会教育賞	正保 宇海 (三野)
最優秀賞	下条 友香 (大門)
優秀賞	齊藤 志帆 (高志野)
富山新聞社優秀賞	金田 純一 (庄川)
チューリップテレビ優秀賞	高田 康平 (新湊南部)
富山新聞社優良賞	加藤 春香 (高松)
富山新聞社優良賞	井上 琴楓 (大谷)
チューリップテレビ優良賞	藤野 莉歩 (小吉)
チューリップテレビ優良賞	中村 有里 (南星)
作	高倉 絵史 (高松)
作	畷 由美 (中田)
作	野田 桃香 (射野)
作	吉田 妃那 (吉野)
作	長野 友映 (南星)
作	向井 唯花 (出野)
作	坪本 日菜 (志貴野)
作	沼井 日群 (志貴野)
作	細池 脩也 (津野)
作	高松 夏莉 (高松)
特別賞	朱莉 (高岡聴覚)

●青井大賞

「海の中の街」 水島 渚さんの作品

海の中に街がある。錯視を利用し、誰もが見えない街の迷路に誘われる。想像を豊かに広げ、異次元の世界をメルヘン風の構成と丁寧な彩色で仕上げた秀逸な作品である。



●富山県知事賞

「14歳の僕」 苗加 寅央君の作品

樹脂で作られた作品は造形加工の高い技術力が伺われる。彫塑の基本的な要素である、動き、リズム、バランスが正しく押さえられており、少年の素朴ながら無心に何かを希求する心情が伝わってくる。



●富山県教育委員会教育長賞

「グリーンカーテン」 太田 奈央さんの作品

線描による仁王像に線状のツタをからませた独特の表現がユニークで、印象強く目を引く作品である。対象を単なる写真ではなく、独自の感性で構成して描き出した点を高く評価したい。



●最優秀賞

「ひみの海」 正保 宇海さんの作品

氷見のPR用ポスターとして制作されたものであろう。中学生らしい素直な構成とさわやかな配色に好感が持てる。海産物をスタンプで制作し、下地に押しで表現した点も面白い工夫である。「海鮮氷見」が楽しく伝わってくる。



●優秀賞

「朝食」 下条 友香さんの作品

家庭の居間を描いたものか、日常の暮らしや環境が手に取るように伝わってくる。暖炉や食器、瓶など雑多なモチーフの組み合わせによる画面構成が面白い。色調もセピア色でまとめ、家族の交わりや歴史すら感じさせる。



●富山新聞社優秀賞

「真夜中のサーカス」 齊藤 志帆さんの作品

ピエロのイラストが巧みである。周りにはサーカスの天幕、ポリングのはじけ飛び、バルーン、トランプ、風船などが配されている。スポットライトに浮かび上がるピエロの謎めいた雰囲気と華やかさが良く調和し、奇妙な世界に誘われるようだ。



講評会



表彰式



審査会

課題研究作品展

2月23日(土)～3月3日(日)

「ものづくりを通して」 学校長 池田 尚紀

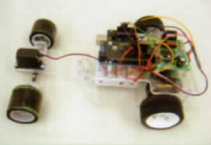
今年度の卒業課題展は、2月23日から3月3日まで青井記念館にて開催されました。再編統合後の新高岡工業高校として初めての卒業生ということで、学科数も人数も増えた関係で作品も多く、従来の1階フロアだけでは展示できず、2階の踊場や美術工芸実習室も利用して、計100点の作品が展示されました。

1日の卒業式の後は、保護者や兄弟など多くの方々が見に来られました。「素晴らしい」「高校生の作品とは思えない」と目を輝かせて見学されていました。開催された8日間で、延べ千人以上の方々に見ていただきました。展示されていた作品は、三年生が「課題研究」授業を中心に、個人またはグループで一年間をかけて取り組んできたものです。この「課題研究」は、自ら課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、統合を図ると共に、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てることを目的としています。課題発表会ではいろんな試行錯誤があったけど最後まであきらめずに頑張ったと言っていました。

卒業生諸君には、この経験を生かして、それぞれの道で頑張ってくださいと思います。

各科最優秀作品

電子機械科



Androidアプリによるリモートコントロール

機械科



電動車椅子の製作

建築科



sense of space

電気科



ぶつからない車

工芸科



座卓

土木環境科



石積擁壁の改修工事

デザイン・絵画科

新・伏木駅
～港町と自然の融合～



「卒業課題に取り組んで」

平成24年度 土木環境科卒業生 山田 直樹

私たちは「卒業課題」の取り組みにあたり、学校の周辺でできることはないかと探し、第二体育館裏の石垣が一部崩壊していたため、その復元を試みることにしました。

まず、最初に決めた範囲を壊し、新しいコンクリートで基礎固めをしました。集めた石を見栄え良く並べ、モルタルを詰めて固まるのを待つという作業を何度も繰り返しました。

私たちの技術の未熟さのため、先生方の手を借りたこともありましたが、三年間で学んだ知識や技術を用いて作業し、私たちがなりに納得のいく仕上がりととなりました。

この卒業課題は自分にとって長く緻密で困難な仕事でした。しかし、今となっては辛く感じただあの日々も、これからの自分のためにあったのだと信じています。この、貴重な経験を生かし、社会で輝ける人材になれたらと思います。

第78回 同窓生ギャラリー

「けいちつの候展」

平成18年度デザイン科卒業生の11名が「冬から春を待つ思い」をそれぞれに表現し、共同作品2点、個人作品17点を展示しました。



出品者全員による壁面作品

代表の川合惟さんの日本画「竜宮」は、水底深く沈みゆく平家滅亡の心象を2曲2双の屏風で表現。高畑未央さんは、四季の景観を組写真で撮り、壁面一杯に配した作品を展示しました。また、荒川紗希さん「冬桜」「雪華」、片田裕美さん「夜桜」は、雪の降る様から春を待ち望む心情を細やかに表現したものでした。

井野辰弥君の木彫は、ケヤキ材で金魚と子犬をユニークで情緒豊かに彫り上げた小作品で、愛らしく、大変女性に人気がありました。他に村谷香奈さん、廣上さおりさん、東海茉莉花さんなど20代のみずみずしさを存分に発揮し、互いの創作意欲を刺激し合った力作が並びました。

平成25年1月27日(木)～2月17日(木)

第79回 同窓生ギャラリー

「三九会展」

「三九会」は、本校を昭和39年3月に卒業したデザイン科第一期生の集まりで、卒業後50年を経過しています。今回は、担任の板橋正義(一步)先生の下、40名卒業した中で、有志14名が集いそれぞれの力作を展示しました。

公募展やコンペに挑戦した作品、美術団体や個人展を中心に発表した作品。また、仕事としてこれまで社会に発信してきた作品など多岐にわたるジャンルの作品約90点が会場狭しと並べられました。

併せて、在学中に指導を受けた村金平(閑歩)、板橋正義、野上隆、池上栄一、高瀬由雄、山本政光(興山)、寺腰健一各先生の作品も展示致しました。

平成25年3月9日(土)～3月31日(日)



常設展Ⅲ期

平成24年12月11日(火)～平成25年2月17日(日)

畑 正吉・塩崎逸陵寄贈作品展

本展では、畑正吉が昭和37年寄贈の木彫レリーフ、ブロンズ塑像、木彫刻、メダル・レリーフ等24点と塩崎逸陵が昭和41年に寄贈の修復絵巻12巻、在学中の臨画20枚、創立60周年記念寄贈の額装、軸装計4点、漆時絵小箱1点等を一堂に展示しました。

畑正吉氏は、本校創立の明治27年(1894)に木材彫刻速成科第1回生として入学、卒業後、東京美術学校へ進み、同校教授、東京工業高等学校(現・千葉大工学部)教授を歴任されました。傍ら賞勲局、造幣局の嘱託も兼ね、東京五輪記念メダルや文化勲章をデザインされ、

わが国のレリーフ(浮き彫り)の創始者であります。塩崎逸陵氏は、明治35年(1902)髹漆科描金部本科卒業後、東京美術学校日本画科に入学し、四条田山派の重鎮寺崎広業に師事。文展に10回入選するも、以後官展には出展せず、個展20回を開催されました。また日本美術協会

改組に参画して活躍しております。



塩崎逸陵の臨画

常設展Ⅳ期

平成25年3月9日(土)～4月6日(土)

日本芸術院賞受賞者作品展

本校卒業生で日本芸術院賞受賞者は6名に及び、他では類のない輩出率の高さを誇っております。

今回は佐々木大樹氏(明治22年～昭和53年)の彫刻「誕生仏」・「仏頭」、山崎覚太郎氏(明治32年～昭和59年)の漆絵「紅梅」・「行雲」・「鹿」・「サンマ」、郷倉千軼氏(明治25年～昭和60年)の日本画「生」、大角勲氏(昭和15年～平成22年)の鍍金「斜度の光年Ⅲ」、藤森兼明氏(昭和10年～)の油絵「ラピスのイコン」・「女性の画」を展示しました。山室百世氏(明治33年～平成12年・金工)は、本校に収蔵作品がないため残念ながら展示できませんでした。

他に、各氏の関連作品と併せ、本

県第一号の無形文化財保持者(人間国宝)の金森栄一(明治41年～平成13年)の鍍金「鍍銅銀象嵌花瓶」も展示致しました。



佐々木大樹「誕生仏」

寄贈作品の紹介

表紙作品解説

釈尊は悟りを開く前に、六年間の断食をはじめとする諸種の苦行により、自らの肉体を阿み、諸欲を制御して精神の浄化に至ろうとした。しかし、これらの行では、悟りの境地を得られないと知った釈尊はこれを離れ、本尊は苦行の雪山を出て、最後の瞑想に向かおうとする姿を表したものである。古来、中国・日本の禅宗美術では下山は重要な主題の一つであった。



◆堀井 三郎 作
「時の景」(水彩)



「最後の集い」(水彩)

本人寄贈(射水市在住)

◆河上 健三 作
「卓上静物」



(油彩)



(油彩)

本人寄贈(射水市在住)

◆太田紀久雄 作
「あじさい」(油彩)



「古城公園」(油彩)



本人寄贈(高岡市在住)

◆川原 和夫 作
「友」(塑像)



本人寄贈

(南砺市在住)

編集後記

今年度の企画展「同窓生ギャラリー」は、8展開催できました。何れの展覧会も力のこもった作品を出品頂き、多くの入館者(約6000人)に感動を与え、高い評価を受けました。

また、常設展では、尚美展ポスター55点や塩崎逸陵の臨画、さらには大戦当時の珍しいドイツ軍の釘(ボタン)などを額装して公開できたことは喜びであり、本校の歴史の重みをひしひしと感ずることができました。今後とも「ものづくりの学校」として本校の収蔵美術品が広く市民の皆様に愛されることを願わずにいられます。

さて、私事で恐縮でございますが、この度、館長としての3年間の任期を終えることとなりました。これまでに皆様方より賜りました暖かいご支援に対し心より感謝申し上げます。誠に有り難うございました。

館長 柴田秀紀

編集発行

富山県立高岡工業高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中川一丁目二〇

TEL 〇七六六二二一六三〇

FAX 〇七六六二二一六三一